

2020 年行事予定

2月8日(土) 第1回常任幹事会 終了
5月～7月に予定されておりました、
春季大会、教育セミナー、振興セミナー
はいずれも開催中止となりました。

5月21日(木) 第56回日本臨床検査専門
医会総会(メール審議)

9月5日(土) 第2回常任幹事会(Web会
議にて開催済)

11月11日(水) 臨床検査の日

11月19日(木) 第67回日本臨床検査医学
～22日(日) 会学術集会(盛岡)
第2回全国幹事会、
第57回総会・講演会

巻頭言

岩手医科大学医学部臨床検査医学講座
会長 諏訪部 章

検査専門医会会員の皆様には、新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)感染症対策として、PCR検査や抗原・抗体検査への対応など、大変お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。私の大学のある岩手県は、日本で唯一新型コロナPCR検査陽性者ゼロの都道府県としての記録を更新してきましたが、Go Toキャンペーンの開始後の7月29日に2名の陽性者が同時に報告され、ついに記録はつきました。この記録はWall Street Journalで「2011年に津波に襲われた岩手は、47都道府県で唯一新型コロナが報告されていない」と取り上げられ、その要因として「県の外出自粛要請を守り徹底する県民の姿勢が要因だ」と紹介されました。しかし、実際は、誰しもが「自分が第1例目になりたくない」という想いが強かったためと考えています。

新型コロナがピークで非常事態宣言が発せられた4月は、学会シーズンであり、臨床検査関連の学会もキャンセルに追い込まれましたが、会長として周到な準備を積み重ねてきた先生方におかれましてはまさに苦渋の選択であつただろうと心が痛みます。かくいう私も、11月19日から4日間、盛岡にて日本臨床検査医学会の第67回学術集会の会長を拝命し、4月ごろは「11月になれば新型コロナも治まっているだろう」と高をくくっていました。しかし、新型コロナは治まるどころか第2波が襲来し、9月以降の学会も軒並み中止かWeb開催かという状況に追い込まれた事態を鑑み、理事会の了解を得て、現地開催とWeb開催を織り交ぜた「ハイブリッド開催」とさせていただくことになりました。地域や施設の状況により盛岡にお越し頂けない方にはWebで参加していただき、お越しいただける参加者には安心して来場いただけますよう万全の感染対策でお迎えしたいと考えます。

プログラムについては、本誌の前月号でご紹介しましたように、「AI時代の臨床検査」というタイトルの元に、AIに関連する特別講演、シンポジウム、教育講演、展示(AI検査室)を数多く計画しました。一般演題は297演題が集まりました。2018年度の302演題、2019年度の342演題には及びませんでしたが、この新型コロナの蔓延状況を鑑みればまずまずの演題数と考えております。ご協力いただいた会員の皆様には心よりお礼を申し上げます。当初すべて一般演題はポスターを予定しましたが、ポスター会場での3密を回避する目的で、事前に音声入りで作成していただいたパワーポイントファイルを学術集会ホームページサーバー内に一定期間格納し、事前登録参加者には自由に閲覧していただく予定です。

リモートによる学会参加は、盛岡までの交通費や宿泊費が不要になり経済効率の高い学会参加と考えられます。何より、従来の現地参加型では、聞きたい講演やシンポジウムが同じ時間帯に重なるといずれかを犠牲にしなければなりませんでしたが、オンデマンド配信では、自宅にいて普段着で好きな時間に興味のあるセッションを自由に聴講できるメリットがあります。これは単に新型コロナ対策期間のみではなく、ポストコロナ時代の一般的な学会形式になるかもしれません。その意味で今回の学術集会は「AI時代の学術集会」の始まりになるかもしれません。

【目次】

p.1	巻頭言
p.2	事務局からのお知らせ、第57回日本臨床検査専門医会総会のお知らせ、教育セミナー資料 有料配布のお知らせ、R4診療報酬改定に向けた要望調査について、SARS-CoV-2対策掲示板設置のお知らせ、第67回日本臨床検査医学会学術集会(盛岡)のご案内
p.3	第67回日本臨床検査医学会におけるワークショップ開催のお知らせ、2021年度第31回春季大会のお知らせ、2020年度会費振込のお願い、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、会員の声
p.4	専門医合格者の声、会員の声
p.5	会員の声、JACLaP-SARS-CoV2対策掲示板のススメとワクチン外来の現状
p.6	編集後記

【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2020年9月18日現在 会員数 796 名、専門医 638 名

【新入会員】（敬称略）

渥美 治世：東海大学医学部付属病院
 土井 美果：東海大学医学部付属病院 臨床検査科
 中澤 直美：筑波大学 循環器内科
 河端奈穂子：旭川医科大学病院 臨床検査・輸血部
 山崎 聡子：杏林大学臨床検査医学
 滝口 純：東京大学医学部付属病院
 小形 幸代：自治医科大学 循環器内科 兼 臨床検査医学
 竹下 篤：大阪医科大学 病理学教室
 皆川 智子：弘前大学医学部付属病院
 大月 道夫：大阪大学大学院医学系研究科内分・代謝内科学
 永川 明香：東海大学医学部付属病院
 中村 泰右：長崎大学病院 検査部
 亀田 徹：自治医科大学 臨床検査医学

【所属・その他変更】（敬称略）

伊藤 弘康：旧 岐阜大学大学院医学系研究科 病態情報解析医学
 新 藤田医科大学医学部 臨床検査科 教授
 江原 佳史：旧 済生会横浜市東部病院 検査科
 新 昭和大学横浜市北部病院 臨床病理診断科
 佐守 友博：旧 株式会社日本食品エコロジ研究所
 新 医療法人明和病院(西宮市) 臨床検査部 主任部長

【2020 年度行事予定】

本年度の行事予定についてお知らせします。変更があり次第 JACLaP WIRE、JACLaP NEWS でお知らせします。その都度ご確認ください。

2020 年

9 月 5 日(土) 第 2 回常任幹事会(Web 会議にて開催済)
 11 月 11 日(水) 臨床検査の日
 → 全国検査と健康展・・・詳細未定
 11 月 19 日(木)
 ～ 22 日(日) 第 67 回日本臨床検査医学会学術集会(盛岡)
 11 月 19 日(木) 第 2 回全国幹事会
 → 第 57 回日本臨床検査専門医会総会・講演会

【第 57 回日本臨床検査専門医会総会・講演会のお知らせ】

第 57 回日本臨床検査専門医会総会・講演会は第 67 回日本臨床検査医学会学術集会(盛岡)時に以下の日程で開催予定です。

開催日時：2020 年 11 月 19 日(木)

総会 13：30～14：00 講演会 14：00～15：00

会 場：盛岡 アイーナ(<http://www.aiina.jp/>)

総会・講演会は現地参加と WEB 参加どちらも可能、ライブ配信および後日オンデマンド配信の予定。

専門医更新単位については申請中。

*講演会

・テーマ「with コロナ時代の臨床検査専門医試験」

司会：バ谷会長 菊池副会長

演題 1：「新専門医制度での認定試験の方向性」

(演者：山田俊幸)

演題 2：「セミナーの在り方」(演者：田部陽子)

演題 3：「2020 年度試験の運営の総括と次年度の取り組み」

(演者：東田修二)

【教育セミナー資料配布について】

(教育研修委員会田部陽子委員長より)

本年度の教育セミナーは講師の先生方の協力により、資料の有料配布を実施しました。38 名より購入申し込みがありました。

【R4 診療報酬改定に向けた要望調査について】

(保険点数委員会三井田孝委員長より)

8 月に会員の皆様にご協力をお願いしましたが、7 名の会員より要望が届きました。

要望回答ありがとうございました。

要望については第 1 段階として臨床検査振興協議会診療報酬改定委員会に提出しました。

【SARS-CoV-2 対策掲示板のお知らせ】

(広報委員会五十嵐岳委員長より)

専門医会会員ネットワーク内の SARS-CoV-2 対策掲示板は引き続き開設中です。

PCR の技術関連、精度管理、検査者の PPE (個人防護具) 等、内容は問いません。

検査管理体制の情報共有やそれらに関する疑問等、みなさまのディスカッションの場としてご利用ください。

SARS-CoV-2 対策掲示板

URL：<https://bbs.jaclap.org/virus/index.cgi>

(閲覧には Password が必要です。閲覧をご希望の方は事務局までメールでご連絡ください)

【第 67 回日本臨床検査医学会学術集会のご案内】



名 称 第 67 回日本臨床検査医学会学術集会

テーマ 人工知能(AI)時代の臨床検査

会 期 2020 年 11 月 19 日(木曜日)～22 日(日曜日)

会 場 アイーナ(いわて県民情報交流センター)

会 長 諏訪部 章(岩手医科大学医学部臨床検査医学講座 教授)

諏訪部 学術集会会長より、今年度の学術集会は感染症拡大予防の観点から、現地参加とWEB配信を併用したハイブリッド方式で開催します、との案内がありました。

概要は以下の通りです。

＜ハイブリッド方式開催の概要＞

- ・特別講演、教育講演など一部のセッションを現地開催、その他のセッションはオンライン開催。
- ・一般演題は、オンラインでのデジタルポスター発表とします。
デジタルポスターの作成方法、提出方法等は追って連絡します。
- ・11月19日(木)～22日(日)の会期中、オンラインにて各セッションをライブ視聴可能。
会期終了後、2週間のオンデマンド配信期間を予定。
- ・会期1カ月前を目途に事前参加登録を開始します。
- ・現地参加の場合はメイン会場のプログラムのみ聴講可能です。他のセッションは会場内でライブ配信にてのみ聴講可能です。パソコンまたはスマートフォンに加え、イヤフォンなどをご持参ください。
現地での聴講をご希望の際は、感染症対策を講じたうえ、会場までお越しください。
体調が悪い場合はお控えください。
今後、詳細のご案内はホームページ (<http://jslm67.umin.jp/>) をご覧ください。

第67回日本臨床検査医学会学術集会時には、合わせて日本臨床検査医学会初のICD講習会も行われます。下記に案内をさせていただきます。

第347回ICD講習会

会 期：2020年11月22日(日)13:00～15:00(予定)

会 場：マリオス(盛岡地域交流センター)大ホール

テーマ：院内感染対策に有用な微生物検査－薬剤耐性菌を中心に－

1. 医師・国内外における薬剤耐性菌の現状
森兼 啓太(山形大学)
2. 臨床検査技師・日常検査における耐性菌の検出法
山田 友紀(岩手医科大学)
3. 医師・耐性菌検出における遺伝子検査(核酸検査)進歩
森永 芳智(長崎大学)
4. 臨床検査技師・院内感染対策に役立つ分子疫学手法(PCR-based ORF Typing (POT法))について
中家 清隆(大阪市立大学)

【第67回日本臨床検査医学会におけるワークショップ開催のお知らせ】

昨年多くの方々に御参加いただき、好評でした日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会主催のワークショップを学会最終日の11/22に開催いたします。本年度ワークショップは9～11時「医学生～研修医対象RCPC」、11～12時「ミニシンポジウム」で構成いたしました。

まずRCPCに関してですが、今回はコロナ禍に対応してZoom Liveによる開催としましたので、全国どこからでもご参加いただけます(臨床検査領域指導医講習申請中)。提示症例ですが、ワークショップ2週間前を目処に開示、医学生～研修医には3名1チームを組んでいただき、当日までに病態

推論をしてきていただきます。検査医の先生方からはライブチャットで質問受付、司会側より医学生～研修医に投げかけて回答いただく予定です。昨年は五十嵐が2題症例提示させていただきましたが、今年は他の先生にお願いをしましたので、また違った雰囲気 of RCPC を楽しんでもらえるのではないかと期待しております。また、参加して下さった医学生～研修医には全員、後日「異常値の出るメカニズム」(医学書院)を贈呈予定ですので、ご興味がありそうな医学生～研修医にお声がけいただけますと幸いです。

後半のミニシンポジウムは、「検査室におけるCOVID-19への対応とワークライフバランス」と題して、PCR検査の実際から検査室の運営に至るまで、実務に即した内容にできればと考えております(臨床検査領域講習1単位申請中)。本セッションは事前収録のため、当日ご視聴の先生方とは議論できませんが、ご意見等ございましたら、ワークライフバランス委員会までお寄せください。

座長は、田部陽子先生(順天堂大学)と増田亜希子(虎の門病院分院)が担当します。講演1では、SARS-CoV-2のPCR検査体制の立ち上げ、現状や課題について、松下一之先生(千葉大学)にご講演いただきます。講演2,3では、検査室の運営(SARS-CoV-2の検査体制、感染対策など)やスタッフの勤務状況を中心に、臨床検査技師長の立場から小野佳一先生(東京大学医学部附属病院)に、臨床検査専門医の立場から朝比奈彩先生(静岡赤十字病院)にご講演いただきます。流行状況の異なる地域の大学病院／市中病院における実際の取り組みを知ることで、今後の検査体制を考える一助となれば幸いです。

今年も学会最終日11/22午前の開催となりますが、御参集いただいた皆様楽しんでいただけるような時間といたく考えておりますので、多くの先生方に御参加いただけますと幸いです。何卒宜しくお願い申し上げます。

文責 増田亜希子(虎の門病院分院)
五十嵐 岳(聖マリアンナ医科大学)

【2021年度第31回春季大会のお知らせ】

大会長：植木 重治

(秋田大学大学院医学系研究科 医学専攻 病態制御医学系 総合診療・検査診断学講座 准教授)

期 日：2021年5月21日(金)～22日(土)予定

会 場：秋田市拠点センター ALVE

【臨床検査振興協会ノベルティグッズのご案内】

本会が会員として参加する臨床検査振興協会では「りんしょう犬さん」をモチーフとしたクリアファイル、ステッカーシール等のノベルティグッズを製作しております。本会会員の先生方には教育、啓発、宣伝活動等にこれらのグッズを無料でご利用いただけますので、本会事務局までご請求下さい。クリアファイルはラインのスタンプ柄(A4サイズ・A5サイズ)の在庫があります。

【2020 年度会費振込のお願い】

本年 3 月に 2020 年度の会費振込用紙をお送りしました。
お納めいただいていない 会員の方は振込をお願い致します。
未納分のある会員の方々は合計額の振込をお願いします
(納入状況は振込用紙に記載してあります)。

2020 年度年会費：10,000 円

(2020 年 1 月 1 日現在、70 歳以上の方は 5,000 円)

銀行名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店(ゼロイチキウ店)

預金種目：当座 口座番号：0020509

ご自身の振込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail
または FAX でお問い合わせください。過去 2 年間で会費を滞
納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送
を停止いたします。悪しからずご了承ください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にとまって定期刊行物、JACLaP
WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。
勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら
必ず事務局までお知らせください。変更事項はホームページ
経由で、又は【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに
記載し、FAX あるいは E-mail でお送りください。

<連絡先> 日本臨床検査専門医会 事務局

(水・土日祝祭日は休業日)

電話：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110

メールアドレス：senmon-i@jaclp.org

【専門医合格者の声】

2019 年度に臨床検査専門医に認定されました梅北邦彦で
す。宮崎大学医学部附属病院 膠原病感染症内科および臨床
検査部に勤務しています。2002 年に宮崎大学医学部を卒業
後、膠原病リウマチ専門医・指導医として診療・研究を続け
ています。臨床検査専門医を取得したきっかけは、臨床検査
部の副部長として検査部の運営、精度管理に携わるようにな
り、21 世紀の臨床検査部の在り方について興味を覚えたこ
とです。大学病院に求められる先進医療には、がん治療にお
ける遺伝子コンパニオン診断をはじめ、細菌同定検査におけ
る質量分析など様々な分子生物学的手法による臨床検査が導
入されています。今後も技術革新による臨床検査の高度化が
進み、将来的にはプレジジョンメディシンに適応できる臨床
検査が重要になると考えています。あるいはビッグデータを
活用した artificial intelligence (AI) と臨床検査との融合は、医
療現場そのものを大きく変えるかもしれません。したがって、
各分野の臨床医や臨床検査技師は、分子生物学的手法、医療
情報処理、AI についての考え方や知識が必要となります。
しかし、多くの医師や臨床検査技師は、医療技術の革新のス
ピードに追いつけていないのが現状ではないでしょうか？私
もその一人です。この時代に臨床検査専門医として自分にで
きることはないか、試行錯誤しています。臨床医と検査技師
の“架け橋”として、分野を超えたより良い医療現場の構築に、
臨床検査専門医として貢献できるよう精進したいと考えてい
ます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

(宮崎大学医学部附属病院 膠原病感染症内科 臨床検査部
梅北邦彦)

【会員の声】

2019 年度に臨床検査専門医を取得しました清水博之と申
します。専門医取得までの経緯、臨床検査医としての現在の
私の仕事、これからの展望、抱負について述べさせていただきます。
私は、2004 年に京都府立医科大学を卒業し、初期
臨床研修医として 2 年間、内科・外科・小児科・精神科な
どをローテートしました。私は全身を診る医師になりたかつ
たこと、子どもに携わる仕事をしたかったことから、小児科
に進むことを決意し、小児科医としてキャリアをスタート
しました。その後、小児を診る generalist から、一歩進んで
subspeciality を極めたいと考えました。そこで、「全身を診る」
という初心を思い出し、特定の世代や臓器に絞るのではなく
「全年齢」の「人」を診療できる感染症内科に進路を変更しまし
た。東京医科大学病院で感染症内科としての研鑽を積み、赤
ちゃんから高齢者まで、感染症患者さんを幅広く診ることが
できるようになりました。

感染症診療を迅速に、的確に行い、患者さんが良くなるた
めに検査は必要不可欠です。そのような検査を専門的に扱う
臨床検査専門医があることを遅ればせながら知りました。自
分の臨床医としてのスキルをさらに向上させるためにも、俯
瞰して検査全体を専門に扱う臨床検査医学に興味を持ち、
2018 年(卒後 15 年目)に現在の藤沢市民病院臨床検査科に異
動しました。私は小児科医、感染症内科医、臨床検査医と、
少しずつ診療対象を広げていきましたが、その知識や経験は、
結果的にどれも有機的につながっており、私にとってはベス
トな道だったと思っています。

現在、臨床検査科で主に検査のコンサルテーション、精度
管理を行っています。合わせて、元々の専門であります感染
症に関しても、不明熱患者、血液培養陽性患者、耐性菌検出
患者などで主治医からのコンサルテーションを受けていま
す。必要があればベッドサイドに足を運び診察も行い、カル
テ記載も行います。全診療科の主治医を検査医学、感染症学
の観点からサポートできる Doctor's doctor としてあり続け
たいと思います。

コロナ禍の時代、検査を取り巻く環境は大きく変化してい
ます。当院でもすでに 70 名以上の COVID-19 患者が入院し、
私も直接診療しております。最初は普通の風邪と区別が付き
にくく、臨床診断がとても難しい COVID-19 は、検査診断が
極めて重要です。世界全体の流行拡大のなかで、いかに迅速
に、そして正確にウイルスを検出できるかが、患者さんだけ
でなく、医療者をはじめ国民全体が切望しているところです。
私は検査と臨床の両方に深く関わっておりますので、臨床検
査室での問題点(主に臨床検査技師の視点)と、臨床現場・ベ
ッドサイドでの問題点(主に医師、看護師の視点)が双方に存在
することを日々実感しています。病院内では多くの職種の人
が働いていますが、目的は皆一緒です。患者さんに、より適
切な医療を提供して、一日でも早く病状が良くなり、笑顔が
戻ることを期待しているわけです。臨床検査室と臨床現場で
問題点、考え方が乖離したままではこの目的が達成されませ
ん。臨床検査医は、この乖離をできる限り少なくする、つま
り検査と臨床の橋渡し役であると思います。これからもこの
役割を果たすべく、検査室と病棟を走りまわる医師でありたい
と思います。

(藤沢市民病院 臨床検査科 清水博之)

【会員の声】

この度、第36回臨床検査専門医試験に合格し、専門医の先生方の一員に加えて頂きました九州大学病院検査部の西田留梨子と申します。

私はもともと感染症内科医として大学病院で勤務していましたが、その頃から微生物検査に興味があり、細菌検査室によく出入りしていました。検査室の枠に空気が出来た際に異動をお願いし、検査室での勤務を始めました。実際に検査部員として働いてみると、微生物検査以外のどの分野の検査に関しても、普段何気なくみていた検査結果が、こんなにもきちんとした管理のもとで行われたものであったことに、まず驚きました。試薬を変更する際や新しい機器を導入する際、検査上の異常値の考え方など、検査室では臨床医が想像している以上に、様々なことが想定され、チェックされた上で、一つの検査結果が返されていることに気づきました。そして、病棟で働く医師は、(自分も含めて)特に自分の専門分野以外の検査についてはあまり詳しくなく、検査室からのアドバイスをとても役に立つこと、検査技師さんも、臨床現場の意見をもっと気軽に聞いてみたいと思っているのを感じました。そこで、臨床経験のある医師として、検査部と臨床医をつなぐような仕事が少しでもできればと思い、専門医を目指すことにしました。感染症医の仕事自体が、コンサルテーションとして主治医から相談を受け、細菌検査室とのやりとりを通して、結果を解釈し、患者さんの状態を踏まえて治療を相談していくところがあるので、似ている部分もあったように思います。

とはいえ、臨床検査専門医に求められるのは非常に幅広い分野の知識である上に、検査方法や項目も日々新しいものが増え、学ぶべき内容は非常に広範囲でした。当院の検査技師さんは、専門分野の知識が非常に豊かで、かつ、とても気さくに教えてくださる方ばかりだったので、教科書で勉強した内容や専門医会の教育セミナーで教えていただいたことを中心に、実際に当院ではどのように検査をしているのか、日常の検査で気をつけるピットホールなどを教えて頂きながら勉強しました。

専門医を取得するにあたっては、康 東天部長を始め、内海健副部長、後藤和人先生には大変丁寧にご指導いただき、誠にお世話になりました。また、各部署で研修や指導をして頂けるようご高配くださった堀田多恵子技師長、ならびに実際に手技や検査の原理、精度管理などについて詳しく指導して下さった検査技師の方々に大変感謝致しております。

試験に合格できたとはいえ、現在は他の専門医の先生方や検査技師の皆さんに、まだまだ教えてもらうことの多い毎日ですが、引き続き勉強や臨床のコンサルテーションの仕事を続け、臨床医と検査部、両方の立場に立った考え方ができる、頼られる臨床検査専門医を目指して精進していきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(九州大学病院検査部 西田留梨子)

JACLAP-SARS-CoV2 対策掲示板のススメと ワクチン外来の現状

皆様、福山市民病院診療部臨床検査科の眞鍋と申します。よろしく願いいたします。

この度は、新型コロナウイルス感染症の検査の現状と、JACLAP-SARS-CoV2 対策掲示板のPRなどを目的としたページを割いて頂きありがとうございます。

1) 新型コロナウイルス感染症の検査の現状につきましては、日本臨床検査医学会 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会の活動内容、「新型コロナウイルス感染症検査の使い分けの考え方」2020年8月27日(第1版)などを最新版でご確認ください。また、少し古い情報にはなりますが、日本医師会 COVID-19 有識者会議/COVID-19 関連検査一覧 2020年6月30日もございます。体外診断用医薬品については「PMDAにおける新型コロナウイルス感染症対策に係る活動について」の関連製品の承認情報、体外診断用医薬品の一覧をご参照いただくのが良いと思います。[2020年8月31日アクセス確認]

2) JACLAP-SARS-CoV2 対策掲示板について、はじめて利用させて頂いた時に、開発状況などの記載をしようと思ったのは、「私の様に専門としていない人でも必要な情報にたどりつけるような記録を残していきたい。」「まったく新しい検査がどのように開発されていくのか追いかけてみたい。」といった気持ちからでした。開発宣言を拾うことによって、その後の製造販売承認申請、承認取得、販売開始の見落としがなくなり、米国FDAのEUA(緊急使用許可)などの海外の情報を把握することで、国内導入時に事前情報を得ておくことができました。PCR以外で、いち早く開発された「IgM/IgG抗体検査キット」については、評価の定まっていない検査キットが流通した時期もあり、どのようなキットが流通したかについても可能な範囲で記載しています。皆様にも掲示板をお気軽にご利用頂ければ幸いです。

3) 私は、現在外来自由診療として海外渡航者向けのワクチン外来を行っています。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、現在複数の国が入国者に対して渡航前の遺伝子検査(PCR検査)の実施と、それに関する結果証明書の提出を求めています。

このような背景から、日本政府より日本渡航医学会へ、ビジネス渡航者の「PCR検査の実施」ならびに「それに関する証明書発行」についての協力要請があり、それに応募し2020年9月1日から開始しております。これはユニバーサルスクリーニングになりますので、「無症候者に対するSARS-CoV2検査での注意点」「臨床検査の偽陽性と偽陰性について」を改めて読み返しているところです。

4) ワクチン接種については、最近主な2つの変更点があります。1つ目の変更点は、日本環境感染学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン 第3版」が2020年7月27日に公開されたことです。B型肝炎ワクチン：ワクチン接種歴があるが抗体獲得が未確認の場合のアルゴリズムが追加されています。麻疹・風しん・流行性耳下腺炎・水痘ワクチン：1歳以上で「2回」の予防接種の記録を勤務・実習前に提出することを原則とするように変更されています。

髄膜炎菌ワクチン：追補版を本文に取り込み、過去5年以内に髄膜炎菌結合体ワクチンを接種していない場合で、検査室や研究室で髄膜炎菌を扱う可能性がある臨床検査技師や微生物研究者には0.5mLを1回接種することが推奨されています。(追加免疫は5年毎に0.5mLを1回追加接種する。)この部分は臨床検査技師に影響があると思います。破傷風トキソイドワクチン、百日咳含有ワクチン、带状疱疹ワクチンの

項目が追加されています。

2つ目の変更点は、ワクチンの接種間隔の変更です。今まで、わが国では予防接種実施要項により、異なるワクチンの接種間隔として、弱毒生ワクチン接種後は27日以上、不活化ワクチン接種後は6日以上あけるように定められていましたが、ロタウイルスワクチン(経口生ワクチン)の定期接種化を契機にわが国でも2020年10月1日以降、「注射生ワクチン同士の接種間隔を27日以上あける」こと以外のワクチンの接種間隔規定は撤廃させることになりました。異動者に対する麻疹・風しん・流行性耳下腺炎・水痘のIgG測定数は減少するかもしれませんが、髄膜炎菌ワクチン(MCV4-D、メナクトラ)の導入は検討に上がってくるかもしれません。もちろん個々の用法用量は変わりませんが、不活化ワクチンと生ワクチン間の接種間隔を気にしなくても良くなるのは利点があることだと思います。

以上、乱筆乱文に最後までお付き合いいただきありがとうございました。

(福山市民病院 診療部 臨床検査科長 眞鍋明広)

【編集後記】

徐々に季節も移り変わり、秋より冬になりつつあります。国内においても、新型コロナウイルス感染症も減少傾向にあり、コロナウイルス流行前の診療状況に近づいていると思います。しかしながら、コロナウイルス感染症は、学校・学問・スポーツなどに大きな傷跡を残し、人と人との絆にも大きな影響を与えています。例えば学校であれば、長期の休学や授業のオンライン化、スポーツであれば、試合の中止・延期・無観客化など、コロナウイルス流行前には想像もつかない影響を及ぼしています。学問においてはの最も大きな問題は、学会のオンライン化という新たな方向性に進みつつあることです。コロナウイルス流行後には、多くの学会が完全オンライン化ないしは現地とオンラインを併用するハイブリット化が進みつつあります。以前であれば、直接学会に参加して、学会の発表や懇親会に出ることにより、新たな医師の知り合いや共同研究などが進むこともありましたが、今後はどのようなになっていくのでしょうか？私個人としては、日本臨床検査医学会学術集会のワークショップで前編集主幹と知り合い、今年より編集主幹をさせていただいております。また、同じワークショップで、過去の同僚が臨床検査専門医を目指していることを相談されて、その後に我々の病院で専攻医に進んでいただけました。今後は、学術集会への参加に関して感染症の観点で厳しい方向になると思いますが、新たな「絆」を作

るためにも「第67回日本臨床検査医学会学術集会@岩手」・「第31回春季大会@秋田」に参加をお願いします。また、オンラインでも臨床検査専門医同士の「絆」が作れるような企画を期待しております。

今号は、諸般の事情でさらに編集後記が続きます。今年の7月から9月まで続いていた有名ドラマでありませんが、編集主幹として、皆様には「土下座をする思い」で執筆依頼をしています。また、入稿頂いた際には、「感謝」しており、発行して皆様に届けられるのが「恩返し」であると考えております。歴代編集主幹より受け継いだ「たすき」を次の編集主幹に引き継ぐその日まで、副編集主幹の五十嵐岳先生の強い支えにより自転車操業的な編集で乗り越えて行ければと考えております。今年一年135号から今号137号まで計18ページの紙面を発行できたことに、入稿頂いた全ての執筆者に感謝いたします。また、事務局として多大な労力を割いていただいている市川綾子さん、編集していただいている宇宙堂の八木秀志さん、最終原稿を確認していただいている日本臨床検査専門医会の役員の皆様に感謝申し上げます。来年発行の138号より、「臨床検査医学への提言」という形で、登壇前会長からスタートする企画を準備しています。来年もJACLaP NEWSをよろしくお願い申し上げます。

(編集主幹 九州大学病院検査部 後藤和人)

会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております！
テーマは自由、文字数も自由です。
是非ともご意見をお寄せください。

【テーマの例】

- ・自己紹介や検査室のご紹介
- ・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局
まで、メールにてお送りください。
E-mail: senmon-i@jaclp.org

日本臨床検査専門医会

会 長：〆谷直人、副会長：菊池春人(法人化検討WG)、村上純子(女性医師支援WG)

常任幹事：東田修二(庶務・会計幹事)、五十嵐岳(広報委員会委員長)、田部陽子(教育研修委員会委員長)、東條尚子(資格審査・会則改定委員会委員長)、
福地邦彦(情報・出版委員会委員長)、増田亜希子(ネットワーク運営委員会委員長)、三井田孝(保険点数委員会委員長)、横崎典哉(渉外委員会委員長)

監 事：土屋達行、古川泰司

全国幹事：伊藤弘康、稲葉 亨、植木重治、大西宏明、上岡樹生、北中 明、木村 聡、木村秀樹、下 正宗、千葉泰彦、中島 収、中村聡子、藤井 聡、
松井啓隆、松野容子、山崎悦子、山崎正晴

情報・出版委員会：

委員長：福地邦彦

委 員：五十嵐岳、出居 真由美、後藤 和人、信岡 祐彦、盛田 俊介、吉田 博

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL：03-3864-0804 FAX：03-5823-4110 E-mail：senmon-i@jaclp.org